

平成27年度 山形のみちづくり評議会 (第2回)

議事要旨

1. 日時・場所

平成28年2月16日(火) 14:00~16:00

山形県庁2階 講堂

2. 出席委員

柴田会長、貝山委員、栗田委員、塩原委員、津藤委員、宮原委員、小山委員、畠山委員
廣瀬委員(大場委員代理)、上坂委員

3. 議事

○「やまがた道の駅ビジョン2020(案)」について

4. 議事概要

○「やまがた道の駅ビジョン2020(案)」について

「やまがた道の駅ビジョン2020(案)」について事務局から説明を行い、主に以下のような意見交換がなされた。

- ・「道の駅」整備にあたっては、休憩機能・情報発信機能・地域振興機能の改善・充実に向けた取組みを進め、「道の駅」来訪(再訪)のきっかけとなる要素を採り入れていくことが必要である。
- ・「道の駅」の多様な機能として、従来の観光客向けサービスに加えて、地方創生の中で地域にとって必要な機能は何か、市町村は官民の役割も含めて十分に考える必要がある。
また、「道の駅」の整備・運営にあたっては、県に相談窓口を設けるなど、市町村の計画に対して県も相談に応じて一緒に考えていくような体制が望まれる。
- ・「道の駅」が地域・市町村の案内窓口となって様々な地域情報を発信することにより、来訪者に喜ばれると同時に、来訪者と地域との間につながりが生まれる。「道の駅」を通じて、地域活性化や地域課題の解決に結びつくような創意工夫のある取組みが求められる。

5. 山形のみちづくり評議会（第2回）における主な意見

○「やまがた道の駅ビジョン2020（案）」について（資料1-1～1-3）

■情報発信機能

- ・「道の駅」を「地域を知る学びの場」として、（地場産品の歴史・生産現場など）地域情報を発信する機能を充実させ、「道の駅」が地域と来訪者とをつなぐ役割を持つことで、「道の駅」に立ち寄る動機を高めていくことが有効であり、運営面の留意事項として付け加えるとよい。
- ・情報発信機能の整備に加え、地元住民が持つ様々な情報を気軽に発信できる形も必要であり、その改善に向けた「道の駅」運営側の活用の仕方も重要となる。また、高速道路・一般道双方で、互いに様々な情報を発信していけるとよりよいものになるのではないかと。
- ・（SNSなど）ヒトを利用した口コミによる情報交換によって「道の駅」の魅力が発信されると、例えば山奥のような場所であっても、来訪のきっかけに結びつく。「道の駅」連絡会ホームページなどを活用するなどして、「道の駅」同士が切磋琢磨する方向につながるとよい。

■休憩機能

- ・車中で仮眠する方も多いため、「道の駅」内に仮眠も可能なスペースがあるとよい。

■地域連携機能（産直施設）

- ・産直施設では、農産物の豊富さを活かして季節毎に商品や種類に変化を与えるとともに、例えば収穫時期（入荷時期等）をPRして来訪者の期待感の向上につなげる取組を行うなど、何度でも訪れたいような工夫を盛り込むとよい。

■「道の駅」の機能の多様化

- ・従来の観光客向けサービスに加え、地域住民のための「道の駅」がプラスアルファ（機能の多様化）の部分。今後は「道の駅」が生活集積機能（小さな拠点）として果たす役割が大きくなる。
- ・プラスアルファ（機能の多様化・充実）の独自性があるとマスメディアに取り上げられやすく、取り上げられることで集客効果もより期待できるものになる。
- ・機能を後から加えた時、施設内の動線がわかりにくくなることもある。機能を多様化する際は人の動線にも気を遣い、どういった機能を持たせるか、ソフト面の検討を十分に行った上で、ハード整備に反映させていく必要がある。
- ・市町村は、地方創生の中で「道の駅」で独自性を発揮する部分、本当に必要な部分（機能）を官民の役割も含めて考えていく必要がある。
- ・地域内の学校などとの連携を図り、（食品や工芸品など）「道の駅」で発表して好評であれば自立させる等、広い意味での地域創生として大きな役割を果たしていく。あまり費用をかけないで、地域を元気にする取組を期待したい。
- ・今回のビジョンや補助金等は市町村が「道の駅」について考える契機であり、市町村の創意工夫で地域活性化・地方創生につながるような、行ってみたい「道の駅」を目指すべきである。特に公共的な機能（保育所・診療所等）については、市町村にとって本当に必要な機能（独自性を発揮する部分）を十分に考える必要がある。

■運用（運営）

- ・市町村にとっては、「道の駅」の整備や運営体制についての課題や不安がある。県が市町村と一緒に考えてくれるような相談窓口の設置が望まれる。

■インバウンド対応

- ・インバウンドの旅行形態として、少人数での自動車観光も増えており、観光資源についても、観光地ではなく地方の生活を見ることに移りつつある。映像や写真などわかりやすい素材をインターネットに流すことで、外国人の来訪のきっかけにつながられるのではないかな。
- ・訪問先でいろいろ調べながら巡るとき、「道の駅」がその地域・市町村の案内窓口となり、「道の駅」に行けば地域のことは何でもわかるという情報発信拠点としての地位を築くことに磨きをかければ、いろいろな可能性が生まれてくるのではないかな。
- ・「道の駅」が来訪者と地域とをつなぐサービスを行うことで、来訪者に喜ばれるとともに、地域住民にも出番と役割が生まれ、地域を活性化・元気にしていくことにつながっていく。
- ・「道の駅」を通じて、地域の大きな課題（過疎・人口減少対策、雇用創出等）を解決していくような、創意工夫の取組み・方策が求められる。

6. 報告

- ・山形県と株式会社ゼンリンとの連携協定について（資料2）
- ・一般国道347号の通年通行化に向けた取組みについて（資料3）

以 上